

第35回 幼児のための「音楽と動きのつどい」

～学生・観客のアンケート調査より～

35th Annual Concert for Children

－Lessons Learned from a Questionnaire of Childcare Faculty Students－

友廣 憲子

I. はじめに

保育学科保育専攻の恒例行事として実施している第35回 幼児のための「音楽と動きのつどい」は令和元年11月20日（水）アルカス SASEBO イベントホールにて（開演10時30分～終演12:35分）開催した。

本行事は、「幼児のための」をコンセプトに参加型公演として位置付けし、学生の日頃の表現活動の授業の成果発表の場としている。平日の午前中、地域の幼稚園、保育園の子ども達を招待して公演している。

当日は幼稚園2園、保育園1園、総勢242名の子ども達の参加があり、たくさんの子ども達が鑑賞する環境で発表することができ、学生にとって素晴らしい体験学習の場となった。

本研究では保育専攻1・2年生と観客にアンケートを行った結果を報告する。

II. 調査方法

1. アンケート調査

- | | |
|--------------------------|-----------|
| (1) 令和元年11月20日（木）観客 | 約70名中43名 |
| (2) 令和元年11月19日（火）保育専攻1年生 | 98名中83名 |
| (3) 令和元年12月3日（火）保育専攻2年生 | 111名中102名 |

III. 調査結果

1. 観客アンケート内容と結果 回答数42名

(1) 当てはまるものに○、または（ ）にご記入ください。

① 本日の公演に来場された方についてお尋ねします。（複数回答 有）

表1

人数	回答数	%	人数	回答数	%
大人1名	21	50.0	大人5名	2	4.7
大人2名	11	26.1	子ども1名	3	7.1
大人3名	9	21.4	子ども2名	2	4.7

② 幼児のための「音楽と動きのつどい」の来場回数についてお尋ねします。

表2

回数	回答数	%	回数	回答数	%
初めての来場	33	78.5	3回目	1	2.3
毎回	2	4.7	5回目	2	4.7
2回目	3	7.1	無回答	1	2.3

③ 幼児のための「音楽と動きのつどい」を何によって知りましたか。(複数回答可)

表3

項目	回答数	%	回数	回答数	%
チラシ	7	16.6	無回答	1	0
家族、知人の紹介	37	88.0			
その他・九文関係	15	35.7			

④ 公演時間についてお尋ねします。

表4

項目	回答数	%	回数	回答数	%
適当	38	90.4	無回答	5	11.6
長い	0	0			
もっと短くしたほうが良い	0	0			

⑤ 開催日・時間帯について

表5

質問項目	回答数	%
平日の午前が良い	16	38
平日の午後が良い	1	2.3
土曜日の午前が良い	6	14.2
土曜日の午後が良い	0	0
日曜日の午前が良い	8	19
日曜日の午後が良い	0	0
無回答	12	28.5

⑥ このイベントの開催会場についてお尋ねします。以下のどの場所での開催が適当だと思いますか。

表6

会場名	回答数	%
アルカス SASEBO イベントホール	34	80.9
佐世保市コミュニティセンターホール	2	4.7
その他	3	0.7
無回答	4	0.9

⑦ 公演内容（全体的な構成）についてお尋ねします。

表7

項目	回答数	%
とても良かった	32	76.1
良かった	6	14.2
普通	1	0.2
工夫が必要	0	0
無回答	3	0.7

⑧ 公演内容（全体的な構成）について、お気づきの点がございましたらご記入ください。

表8

ご意見
最後にやはり園児たちの目線で良く学んでいるのだと感じました。
皆さん笑顔でとても良かったです。これからのご活躍を楽しみにしております。
学生の幼児のための発表会という授業の延長という主旨であれば良かったと思います。
幼児が一生懸命見て聞いている所は感動しました。
子どもたちも楽しんでいて学生達も笑顔で素敵でした。
見応えがあり楽しかったです。
盛りだくさんで楽しかったです。
学生の技術は未熟な部分はあるが授業の成果発表としては良い。

(1) のアンケート内容は幼児のための「音楽と動きのつどい」公演全体について質問したものである。

近年「幼児のための」というコンセプトから幼児の参加を絶対的要件として開催している関係上、幼稚園、保育所、認定こども園の園児が参加可能な平日の午前中開催としているが、希望の曜日として日曜日の午前中があった。日曜日となると子どもたちの参加の数が確保されないのが、運営上は不安要素がある。

全体的な気づきの中で子どもたちの喜ぶ姿が観客の皆様に伝わっていることが今回のアンケートから明らかとなった。

(2) 各演目についてお尋ねします。率直なご感想について当てはまるものに○をつけてください。またご意見等ございましたら下のスペースにお書きください。

第1部

【吹奏楽】

表9

項目	回答数	%	意見
とても良かった	17	40.4	とても楽しい雰囲気でした。
良かった	9	21.4	小さい子にもあきさせない構成で素晴らしかった
普通	0	0	レベルが高い。
無回答	14	33.3	バトンのお姉さんの表情が素敵でした。

【オペレッタ】

表10

項目	回答数	%	意見
とても良かった	22	52.3	終わりがいい
良かった	6	14.2	歌は上手でしたが動きがもう少し
普通	1	2.3	お姫様の演技・歌唱力素晴らしかったです。
無回答	14	32.5	素晴らしい内容だと思った。

第2部

【ピアノ連弾】

表11

項目	回答数	%	意見
とても良かった	16	38	よく弾きこまれていると思いました。
良かった	5	11.9	音がきれい。
普通	1	2.3	
無回答	21	48.8	

【ダンス】

表 12

項目	回答数	%	ご意見
とても良かった	16	38	子どもがノリノリでした。
良かった	2	4.7	もう少しこどもが知っている曲が多いと嬉しいです。
普通	0	0	
無回答	25	58.1	

(3) その他、何かお気づきの点がございましたらご記入ください。

表 13

ご意見
このようなものを幼児に観せるのはとても良いと思います。
演目の間のピアノによって子どもを楽しませるのが良かった。
つなぎの童謡のコーナーがとても良かった。

観客のアンケートの気づきの中に、演目の間の童謡コーナーについて良かったとコメントが複数あった。

次回の公演も演目とのつなぎとして、子ども達の集中を途切れさせないためにみんなで歌いましょう童謡コーナーは継続していきたいと考えている。音楽と動きのつどいを公演することにあたって「このような作品を子どもに観せることはとても良い」という評価があったことは次年度の学生たちに伝えていきたい。

2. 保育専攻1年生のアンケート内容

Q1 保育専攻2年生の発表を鑑賞した感想を記入してください。

- ・吹奏楽について
- ・オペレッタ「白雪姫」について
- ・ピアノ連弾について
- ・ダンスについて

Q2 来年はあなたたちのステージです。来年の抱負（どのようなステージにしたいですか？）

（保育専攻1年生のアンケート結果）

【互いの表現を認め合う表現のスキルを磨く】

- ・一人一人の笑顔が素敵。 〈7名〉
- ・練習の積み重ねが伝わってきた。
- ・歌い方、声の出し方・上手・きれい。 〈3名〉
- ・歌がとても上手・演技力が素晴らしい。 〈4名〉
- ・私もこんなふうに歌いたい。メロディーが素敵。
- ・男の人のピアノが上手。なめらかな演奏。 〈3名〉
- ・みんなが踊れる選曲でとても良い。
- ・演奏するだけでなく、子ども達も巻き込んでいたのがすごかった。

【工夫がみられた点】

- ・ステージをより良いものにするため衣装2名・髪型2名・マーチングを取り入れたこと。
- ・工夫があった。(楽器紹介) (10名)
- ・ミュージカル風でおもしろさを出している。
- ・演出として「風船」など効果的に使用していた。(4名)
- ・ピアノ連弾・演奏呼吸を合わせていた。

【来年に向けて】

- ・今までお世話になった方へ成長したところを見てもらい、成長を伝えたい。
- ・皆と協力して楽しみたい。
- ・園児と多く交流して楽しく歌って踊りたい。
- ・皆と一体感を持ったステージにしたい。
- ・すべてにおいて一体感のある演出にしたい。
- ・2年生を超えるものを創りたい。 (12名)
- ・子ども達を惹きつけるようなステージにしたい。
- ・「笑顔」をテーマにしてみたい。 (4名)
- ・皆が元気で笑顔になるようなステージにしたい。
- ・様々なジャンル曲でやってみたい。
- ・子どもとたちが楽しかったと言ってくれるようなステージにしたい。
- ・先輩みたいにかっこ良くなりたい。

保育専攻1年生の来年に向けた抱負のコメントにはゲネラルプローベを鑑賞して先輩に触発されたコメントが多く、来年の「音楽と動きのつどい」へ意欲を持つことができていると推察される。

3. 保育専攻2年生のアンケート内容

Q1 1年次に先輩のステージを鑑賞した感想はどうでしたか？

Q2 第35回幼児のための「音楽と動きのつどい」に出演してみてどうでしたか？

非常に良かった ・まあ良かった ・どちらでもない

Q3 良かったところ、良くなかったところがあれば記入してください。

Q4 開催に向けての意見があれば記入してください。

(保育専攻2年生のアンケート結果)

【昨年度の先輩のステージを鑑賞した感想】

- | | | |
|-----------------|-------|-------|
| ・もっと頑張ろうと思った。 | <20名> | 19.6% |
| ・先輩たちの頑張りに感動した。 | <33名> | 32.3% |
| ・クオリティが低い。 | <6名> | 5.8% |
| ・先輩に近づきたい。 | <13名> | 12.7% |
| ・ちゃんと表現している。 | <5名> | 4.9% |

【出演した結果】

- | | | |
|-----------|-------|-------|
| ・非常に良かった。 | <68名> | 66.6% |
| ・まあ良かった。 | <30名> | 29.4% |
| ・どちらでもない。 | <4名> | 3.9% |
| ・回答なし | <0名> | 0% |

【良かったところ】

- ・1つのものを創り上げることが楽しかった。他者を理解し、1つのものを創り上げることができた。
- ・子ども達が楽しそうにしている姿がみられた。
- ・友達と楽しむことができた。
- ・出来る人が優しく教えてくれた。
- ・自分も子ども達も楽しむことができた。
- ・自分の役をやり遂げることができた。
- ・のびのびと演じることができた。

- ・なんだかんだ最後はちゃんと吹けるようになって、頑張ることができた。
- ・自分を表現する。前に立って発表すること、乗り越えることができて、色々と成長できる。
- ・みんなで協力して笑顔でやり遂げることができた。
- ・時間をかけて創り上げたものをみんなと協力して発表することができた。
- ・本番ではみんなが1つになって発表することができた。
- ・普段関わらない人と、協力して成し遂げることができたところ。 <8名> 7.8%
- ・本番の達成感。そこでしか味わえない感動。 <15名> 14.7%
- ・皆で意見を出し合い、時にはぶつかりながら完成を目指すことができた。 <3名> 2.9%
- ・衣装や構成を工夫した。
- ・より良い作品にしようとして、一人一人の意見があった。
- ・オーディションでみんなの前で歌ったりピアノを練習したり、歌をあわせたり、もっと良くしようという気持ちで向き合った。
- ・貴重な経験ができ嬉しかった。
- ・楽しく演奏することができた。
- ・より良くするためにマーチングを取り入れ新しいことにチャレンジした。

【良くなかった点】

- ・シャボン玉ばかりに子どもの目がいったこと、シャボン玉はなくても良い。 <18名> 17.6%
- ・全体の授業の進め方に工夫がいった。
- ・全体で動きを合わせる回数が少なく追い込みが大変だった。
- ・練習に真面目に取り組まない人がいた。
- ・実習や夏休みがあると前期で出来ていたことがまた最初からみたいになるところ。
- ・とにかく時間がない。
- ・練習に参加しない人との接し方が難しかった。
- ・練習計画の見直しが必要。

【意見】

- ・一人一人の予算を増やしてほしい。
- ・全体の計画をもっとしっかりしてほしい。
- ・オペレッタの役割配分工夫が必要。
- ・もっと早くから組み合わせたかった。
- ・会場がせまい。
- ・中間発表があっても良いのではないだろうか。
- ・リハーサルの拘束時間が長いので次の日まで疲れが取れなかった。
- ・このイベントは学校にとっても周りの家族や地域の方にとっても良いことで、これからも続けてほしい。

専門的知識や技能については1年間の総合保育技術の授業や発表に向けて「吹くことが出来なかった楽器もいつのまにか演奏できるようになった」「難しい振り付けもお友達に教えてもらいながら踊れるようになった」等初めて学習し、大変だったけれども不安な中でもやり遂げた達成感を感じていることがわかった。学習の中で、普段関わらない学生同士、活動の中でステージを成功させたいという気持ちからお互いの意見に傾聴し、協力し、行事を通した「コミュニケーション能力」を育成していることが改めて示された。

課題解決能力として捉えるとステージを成功させるために「もっと」～ようにしたい、というアイデアを出し合い、創り上げることができていた。

主体的に学ぶ力として捉えると、主体的に学ぼうとする姿勢（歌を練習・ピアノを練習・セリフを覚える・発声の練習）を身に付けることができたことがアンケートから読み取ることができた。

5. まとめ

今回のアンケートから保育専攻 1 年生にとって次回の「音楽と動きのつどい」に対するモチベーション向上に向けゲネラルプロローペを鑑賞させることの意味は見出している。

ステージを経験した学生の意見として演出として使用している「シャボン玉」について次回どうするか指導者と協議して進めていきたいと考える。

別会場(600 名定員)で発表していた時はステージの上でステージに向けて「シャボン玉」を設置していて「シャボン玉」について特に学生からのコメントはなかった。しかし、アルカスでの「シャボン玉」効果は演出というより、子ども達の気を引いてしまうものであり、舞台製作上、学生にとっては「検討してほしい」演出であることが示唆された。

次に授業計画についても、学生の後期の追い込みに負担がかかっているところは、来年度に入り、授業計画の中で前期に行うこと（大道具や小道具・衣装の制作）などは夏休み期間に対応する必要性を改めて学生に伝えていくよう計画したい。追い込まれるとパワーを発揮する学生であるが、余裕を持った授業展開も必要であるため、企画運営を再検討していきたい。

来年度もお客様や学生の満足度を高められるよう、指導者と検討しながら行事運営に臨んでいきたい。

付記 本研究は平成 31 年度長崎短期大学傾斜配分研究費より助成を受け行われたものである。